

アジア多国籍医師団準備委員会(2)

代表 菅波茂

平成5年のアジア多国籍医師団発足に向けてモデルプロジェクトを実施することになりました。AMDA-Bangladeshのリーダーシップのもとに、AMDA-JapanとAMDA-Nepalの3カ国が共同で、バングラデッシュで大きな問題になってきているミャンマー難民の医療緊急救援活動を開始いたします。参加希望者の方は本部事務局津曲兼司医師までご連絡ください。

ミャンマー難民医療緊急救援プロジェクト

(目的)

バングラデッシュ医師、ネパール人医師と日本人医師の3カ国の医師団による、バングラデッシュに流入しているミャンマー難民に対する国際緊急医療救援活動の実施。また、本プロジェクトをアジア医師連絡協議会各国支部による緊急救援活動を展開する「アジア多国籍医師団」構想のパイロットプロジェクトとする。

(責任者)

AMDA-Bangladesh	Dr.Nayeem S.A.(AMDA-Bangladesh代表/東京大学医学部第二外科留学中)
AMDA-Japan	菅波茂医師 (AMDA代表/医療法人アスカ会理事長) 701-12岡山市櫛津310-1 (Tel)0862-84-7676,(Fax)0862-84-7645
AMDA-Nepal	Dr.Rameshwar Prasad Pokharel (神戸大学医学部小児科留学中)

(担当者)

AMDA-Bangladesh	Dr.K.M.A.Jamil (東京大学医学部第一内科留学中:バングラデッシュのチッタゴン出身)
AMDA-Japan	津曲兼司医師 (医療法人アスカ会菅波内科医院副院長) 701-12岡山市櫛津310-1 菅波内科医院 (Tel)0862-84-7676,(Fax)0862-84-7645

(東京連絡事務所)

小林米幸医師 (AMDA-Japan副代表/小林国際クリニック院長)
242神奈川県大和市西鶴間3-5-6-110
(Tel)0462-63-1380,(Fax)0462-63-0919

(チッタゴン連絡事務所)

Mr.S.A.Razzak(Regional Co-ordinator of AMDA-Bangladesh for this Project)
c/o Dr.K.M.A.Jamil
3, Brickfield Road, Patharghata, Chittagong 4000,Bangladesh
(Tel)88-031-222453,(Fax)88-031-225539

(第一次先発隊)

Dr.K.M.A.Jamil 東京大学医学部第一内科留学中)

(第一次医療隊)

Dr.Nayeem S.A.(東京大学医学部第二外科留学中)

津曲兼司医師 (医療法人アスカ会菅波内科医院副院長)

野田信一郎医師 (高知医科大学卒業)

(第二次医療隊) 編成待機中

(活動内容)

1) 現地予備調査 (第一先発隊)

2) 移動医療キャンプ (2回/週) の実施と支援 (第一次医療隊以後)

AMDA-Bangladesh の現地医師団による医療キャンプを AMDA-Japan と AMDA-Nepal が支援する。医療キャンプでは緊急医療(Emergency)、予防接種(Immunization)、健康教育(Health Education)を実施予定です。

(日程)

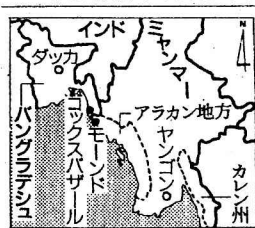
平成4年3月27日にDr.K.M.A.Jamilが成田からダッカ経由チッタゴン入る予定。平成4年4月10日にDr.Nayeem S.A.津曲兼司医師/野田信一郎医師が成田からダッカ経由チッタゴン入る予定。

第一次医療隊は1-2週間現地活動、その後第二次医療隊派遣予定。

募金口座 (目標額500万円)

- 1) 郵便振替口座番号: 岡山5-44380 加入者名: AMDAミャンマー難民 (加入者負担)
- 2) 銀行口座: 中国銀行一宮支店 (普) 1206026 : AMDAミャンマー難民

1992年(平成4年)3月2日 月曜日 京月 日 業庁 局



ミャンマー 軍が難民に発砲 取り囲み13人死亡か

【ニューデリー1日11長岡】バングラデシュ国境に近いミャンマー西部アラカン地方で先月二十八日、バングラ側に逃れようとしたイスラム系住民に対してミャンマー軍が発砲し、少なくとも十三人が死亡した模様だ。昨年末から急増したミャンマーからバングラへの難民流入は、全体で十二万人に達しており、ミャンマー軍の住民迫害に対し、国際的な非難が強まりそうだ。

バングラデシュのUNB通信などによると、イスラム系住民への発砲事件があったのは、ミャンマー西部のモインド地区のアミナバザール村。国境地帯の難民たちの証言によると、ミャンマー軍部隊は、バングラ側に向かおうとするロヒンギャ族住民の一部を連行して並ばせ、一斉に銃撃したという。取り囲んで銃を乱射したとの証言もある。また、一部の新聞は死者十五人と報じた。

昨年末から急増したミャンマーからバングラへの難民は十二万人近くに達しており、事件の翌二十九日にも、一万人が越境した模様だ。

「去年までは老人や女性、子供が多かったのに、最近は難民の中に若者が増えてきた」(西側外交筋)という。

欧州共同体(EC)はすでに、五十万ECU(欧州通貨単位)の拠出を表明。英国やカナダも財政支援に乗り出している。国際赤十字の職員も現地入りした。

ミャンマーの軍事政権は分離独立を求めるカチン、カレン、シャン州の少数民族ゲリラを各個撃破の形で掃討し、昨年後半からは西部のイスラム系ロヒンギャ族(人口二百万-三百万人)のゲリラに対する攻勢を強めていた。

特に、ロヒンギャ族が他の少数民族との共同作戦に踏み込んだ形跡があることに神経をとがらせている、との見方が有力だ。

昨年十二月の国境地帯でのミャンマー軍とバングラ軍との衝突も、ロヒンギャ族ゲリラを深追いした結果起きた偶発的なものといわれている。

また、ミャンマー軍がこの三年間に二十万人から三十万人規模に膨張し、軍備増強が続いていることも、バングラ側の警戒感を強めている。

92/3